

## H28年 年始訓示

皆さん、新年明けましておめでとうございます。  
清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

年末年始は、リフレッシュできましたか？今年はずっと暖かくて天気も良かったので、出掛けた方も多かったのではないのでしょうか？

今年は、6日間の休みでしたが、ここ数年9連休が続いたせいか短く感じた人も多かったことでしょう。私自身もあつという間で、ゆっくりと考える時間は取れませんでした。年が明け、気持ちを新たに、自分の目標を掲げることになりました。

今年の目標としては、「結果を出す」「成果にこだわる」といった気持ちで臨んでいこうと考えています。私は、これまでも皆さんに、「失敗を恐れずチャレンジしてもらいたい」ということを伝えてきました。そこには結果を求めず、努力する過程が大切だという思いもありました。しかし、私自身においては、当然ながら「結果」を求められます。村政には、様々な課題があり、その解決に向けて担当課の皆さんが、いろいろと努力されていることは承知していますが、村民にとっては「やるのか、やらないのか」「出来るのか、出来ないのか」ということに関心があります。全ては、最終的に判断する「私の決断」にかかっていることは言うまでもありません。

今年は、特に、そういう点を意識しながら、「持続可能なまちづくり」の実現に向けた取り組みをなお一層推進していきたいと考えておりますので、皆さんのご協力をよろしくお願いします。

ここで、今年の村政について、いくつか申し上げておきたいと思います。

やはり、「まち・ひと・しごと創生」総合戦略の推進が大きな仕事であると考えております。平成28年度は、2年目ということになりますので、工程表に合わせて少しずつ成果を上げていかなければなりません。決して担当課任せにすることなく全庁一丸となって取り組んでいく必要があります。

次に、広報広聴機能の強化ですが、広報誌「広報とうかい」が村民から高い支持を受けていることから、一層その充実を図っていかねばなりません。一方で、広聴機能は不十分であり、まだまだ村民の声を拾い切れません。引き続き検討を重ねながら、その手法を確立して参りたいと考えております。

次に、子育て支援ですが、総合戦略にも掲げたとおり、若い世代が安心して子育てできる環境を整えていかなければなりません。待機児童の解消や様々な保育ニーズへの対応は大変難しい課題ではありますが、あらゆる地域資源を活用しながら村民の期待に応えていきたいと思っております。さらに、「とうかい版ネウボラ」の実現に向けた検討も本格的に始めて参りたいと考えております。

次に、高齢者支援ですが、やはり介護予防は最大の課題であると認識しております。特に、認知症予防対策は、10年後20年後を見据えて、今から手を打たなければならない状況にあります。今年度からスタートした「ゾテリア東海」のような認知症予防教室を村内の各地域で展開していければとも考えております。また、シルバーリハビリ体操も成果が上がっておりますので、更なる普及に向けて取り組みを強化していかなければなりません。

また、健康づくりについては、高齢者の「健康寿命」を伸ばすことはもちろんのこと、若い世代にも意識付けが必要となりますので、10月からスタートした「とうかいヘルスマイレージ」をもっとアピールしていく必要があります。当然ながら、健康増進課の体制も強化しなければなりません。引き続き、村民の健康づくりへの取り組みを積極的に働きかけて参りたいと考えております。

次に、商工・観光の振興ですが、今月には、「産業・情報プラザ」（アイヴィル）がオープンします。「まち・ひと・しごと創生」における創業支援の拠点施設であり、観光振興の情報発信拠点ともなりますので、思い切った施策を展開していきたいと考えています。さらに、商工会を初めとして村内の事業者等とも連携しながら新たな地域振興策についても取り組んで参りたいと考えています。

また、地域公共交通については、路線バス運行の実証実験が継続されておりますが、その効果を検証しながら、4月からの本格運行化に繋げて参りたいと思っております。

次に、教育ですが、「(仮称)歴史と未来の交流館」整備事業を着実に推進していくために、今月から体制強化を図ったところでもあります。本村の歴史を次世代へ引き継ぐとともに、青少年の健全育成を推進する拠点施設として整備していかなければなりません。また、2019年茨城国体に向けた準備も始まりますので、体制を整え着実に対応して参りたいと考えております。

次に、地域自治の推進ですが、行政協力員制度の廃止と単位自治会補助金の

一括交付金化を進めて参りました。一部に懸念の声は上がっているものの、方向性としては、概ね理解を得ているのではないかと考えておりますので、さらに丁寧に進めて参りたいと思います。一方、(仮称)まちづくり協議会の設立に向けた話し合いは今後とも続けていかなければならないと感じているところであります。

次に、環境ですが、「環境モデル都市」を目指していたところですが、国の政策動向が不明瞭なため、しばらく休止せざるを得ない状況となってしまいました。大変残念ではありますが、新たに、バイオマス利用構想の検討に入っておりますので、今後の展開を見据えながら、本村の環境施策の目玉にして参りたいと考えております。

次に、防災ですが、原子力災害における避難計画の策定を進めているところですが、できるだけ早く住民の方々に説明したいと思っております。併せて、わかりやすいガイドブックの作成も行っているところであり、住民の方々のご意見も参考にしながら、関係者との協議を継続しつつ、実効性のある避難計画づくりに努めていきたいと考えています。

また、原子力政策においては、新たに、技術者などの人材育成・確保を支援することとしており、3月までには、産学官連携による協議会の設立が予定されています。今後は、この協議会を中心として、具体的に雇用の確保を目指した取り組みを進めて参りたいと考えております。

次に、農業ですが、「東海村農業振興計画」が策定され、「村民全員参加による持続可能な都市近郊型農業モデル」を目指していくこととなりましたので、本年は、新たな担い手づくりを支援する事業を推進して参りたいと思います。また、農地の保全も重要な課題であります。農業委員会制度が改正され、新たに農地利用最適化推進委員が設置されることから、今まで以上に、農地の貸し借りを円滑に進めていきたいと考えております。いずれにしましても、農業政策は、農業関係者だけでなく、全ての村民を巻き込んで、具体的な検討を重ねていかなければならないものであると感じております。

次に、インフラ整備ですが、245号線の拡幅工事の進捗に併せた対応に努めるとともに、阿漕ヶ浦公園の整備も着実に推進していかなければなりません。ホッケー場の人工芝整備はもちろんのこと、公園全体の整備構想の行方は、多くの村民が関心を持っており、随時説明して参りたいと思っております。下水道事業については、汚水処理計画の見直しの方向性が固まりましたので、今後は、

村民の方々への説明を丁寧に行っていく必要があります。水道事業については、取水場整備を着実に進めるとともに、なお一層の経営効率化に努めていかなければなりません。一方、土地区画整理事業については、駅西第二地区が終結に向けた段階に入っておりますが、その他の地区についても早期完成に向けた取り組みを強化していきたいと考えております。

今申し上げたもの以外にも、国際化への対応、公共施設等総合管理計画の策定、課税の適正化や税の徴収確保対策の推進、マイナンバー制度への対応、地域福祉計画の推進や生活困窮者対策への対応など、各課において課題は多いと思いますが、皆さん方には、各職場で、与えられた職務に全力であたっていたきたいと思います。

ここ数年、毎年のように、新しいことに取り組んで参りましたが、限られた職員数の中で、皆さん方には大変頑張ってもらっていると感じております。そうした中で、私が一番心配しているのは、皆さん方の健康です。一人ひとりが心身の健康に留意するとともに、管理職の方々は、適切な組織管理をお願いします。自分一人で抱え込むことなく、組織の力を活かして、仕事を進めていただきたいと思います。

今年一年が、皆さんにとって良い年になりますように、そして村としてもすばらしい年になりますよう祈念しまして、年頭のあいさつといたします。

今年も一緒に頑張りましょう。